

「社会価値」の創造

## お客さまへの価値

マルハニチログループにとって、お客さまからの信頼を獲得しつづけるために、安全・安心な食の提供は最重要の課題です。またサステナビリティ中期経営計画では、消費者の権利・利益を尊重する「消費者志向経営」の推進、お客さまのライフステージに沿った食を提案する「生涯健康計画」の推進を重点課題に掲げています。

### サステナビリティ中期経営計画

重点課題	中期目標		行動計画
	項目	目標	
安全・安心な食の提供	品質保証体制	品質マネジメントシステム「マルハニチログループ品質保証規程」の浸透と適切な運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質PDCA活動をグループ全体で展開「設計開発」「原材料調達」「人材育成」を重点テーマと位置付け継続的な改善を図る</li> </ul>
	食品安全体制	グローバル規格の食品安全マネジメントシステムの認証取得推進と効果的な運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのサプライチェーンとの連携を強化</li> <li>工場点検・指導の強化</li> <li>品質衛生管理教育体制の充実化</li> </ul>
	食品防御体制	「マルハニチログループフードディフェンス管理規則」にもとづく良好な職場環境の維持と防御レベルの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場点検・指導の強化</li> <li>フードディフェンス管理教育の継続</li> </ul>
「消費者志向経営」の推進	「消費者志向経営」の社内浸透	トップコミットメントにもとづく社内風土の醸成、および各部門の有機的連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>「消費者志向経営」に関する啓発研修の実施</li> <li>「消費者志向経営」を推進するための体制構築</li> <li>「お客さまの声」を生かす事業活動の強化</li> </ul>
	消費者とのコミュニケーションの一層の深化	お客さまへの情報提供の充実と、双方向の情報交換	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客さまに満足いただける対応サービスの強化</li> <li>安全・安心への取組み強化</li> <li>持続可能な環境活動との連携</li> <li>消費者教育「食育活動」との連携</li> </ul>
「生涯健康計画」の推進	商品開発・提供、情報発信を通じてお客さまのライフステージに沿った健康維持の支援	「生涯健康計画」にもとづくコミュニケーション活動の活発化、および研究・開発の強化 ヘルス&ウェルネスへの貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロモーション活動の推進</li> <li>魚食および魚由来の機能成分の研究・開発</li> <li>機能性表示食品、減塩やカルシウム強化、カロリーコントロールなどメタボ対策や骨強化などの「カラダの健康」への対応</li> <li>食べることそれ自体も楽しんでいただけるなど、「ココロの健康」へも配慮する商品</li> </ul>

※サステナビリティ中期経営計画の進捗状況についての詳細は、サステナビリティレポート(ウェブサイトに)掲載しています。

### 安全・安心な食の提供

マルハニチログループでは、マルハニチログループ理念、およびマルハニチログループ品質保証方針にもとづいた品質保証体制のもと、お客さまの「視点」に立ち、お客さまが求める「品質」を考え、お客さまに安全な「品質」をお届けし、お客さまに安心していただける「食」を追求しています。

そのために、商品の開発からお客さまに商品をお届けしたその後までのすべてのプロセスにおいてさまざまな施策を行うとともに、従業員に対しては、品質に関わる教育・研修を実施し、食品会社の従業員としての意識の啓発、知識の習得、および能力開発を行っています。

### ■品質保証方針・品質に関する中期4ヵ年計画

マルハニチログループは、グループ理念に則った「マルハニチログループ品質保証方針」を定めています。

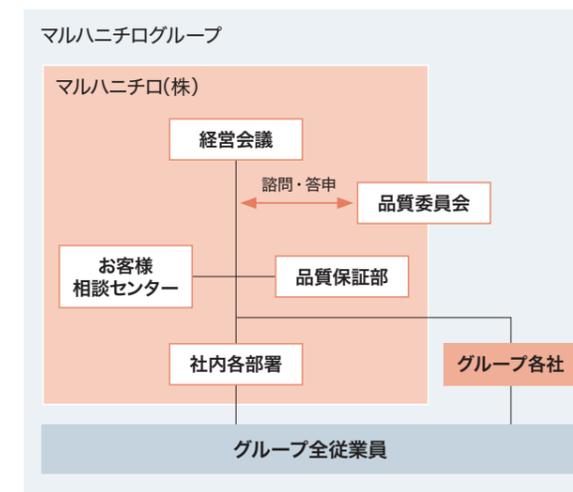
#### マルハニチログループ品質保証方針

- 国内外の法令・業界の規約等を遵守します。
- 全てのサプライチェーンとの連携を強化し、品質保証レベルの向上を図ります。
- お客さまとのコミュニケーションを大切に、適切な情報を積極的に提供します。
- お客さまと真摯に向き合い、その声を大切にして商品・サービス等、企業活動の改善に反映させます。
- 国際規格の品質マネジメントシステムを骨格とする当社グループ規程に基づいた品質保証活動を実施します。
- 一人ひとりが知見や技術のレベルアップを図ると共に品質に関わる意識の向上を図ります。

### ■品質保証体制

マルハニチログループは、経営会議を品質保証の最高意思決定機関とする体制を構築しており、適切な品質保証活動を実施するための重要な方針や施策を決定しています。また、経営会議の諮問機関として「品質委員会」を設置し、諮問事項の審議を行っています。マルハニチロ(株)品質保証部は、各種方針類の策定をはじめ管理状況のモニタリング・改善支援、教育・啓発など、グループ品質保証マネジメントの要としての役割を担っています。一方、社内各部門および各グループ会社には品質責任者・品質担当者を配置し、グループとしての品質保証に関する方針・施策などの情報を伝達するとともに、品質保証の計画や施策の立案・推進役を担っています。

#### 品質保証体制図



### 「消費者志向経営」の推進

「消費者志向経営」の社内浸透の強化については、「消費者志向経営」に関する啓発研修の実施および推進体制の構築のほか、「お客さまの声」を生かした事業活動の強化を計画しています。

2018年度には「消費者志向経営」について社内研修を行い、2,000名近いグループ従業員が受講しました。また、マルハニチログループが策定した「お客さま対応マニュアル」をマルハニチロ(株)およびグループのお客さま対応に携わる担当者へ配布しています。



消費者志向経営研修

### 「生涯健康計画」の推進

マルハニチロ(株)では、お客さまのライフステージに沿った健康維持を目的として、DHAをはじめとする健康効果が実証された機能性素材、減塩惣菜や見た目にもこだわった介護食品など、お客さまの「カラダとココロの健康」に配慮した商品の開発と提供を一層強化するための「生涯健康計画」を推進しています。

## TOPICS

### 企業ブランドの価値向上をめざし、「マルハニチロ」ブランドに統一

2018年度からスタートした中期経営計画のひとつの柱として、新たにブランド戦略を導入し、次の10年に向けて企業ブランドの価値向上と、さらなる成長をめざしています。その一環として、2018年秋の新品・改良品より、商品ブランドを「マルハニチロ」へ統一し、スタートしました。従来の「マルハ」「あけぼの」「アクリ」ブランドはすべて「マルハニチロ」ブランドとなり、「あけぼの」は缶詰のサケ、カニ、ホタテのシリーズ名となりました。



誌面の都合上、一部の取組みのみを紹介しています。詳しくはサステナビリティレポート(ウェブサイトに)をご覧ください。

「社会価値」の創造

## 従業員への価値

サステナビリティ中期経営計画では、「成長機会の提供」「安全で働きやすい職場づくりの推進」「ダイバーシティの推進と働き方改革の実施」「健康経営の推進」「人権の啓発推進」を重点課題に定め、従業員への価値を高めるための行動計画を実行しています。

### サステナビリティ中期経営計画

重点課題	中期目標		行動計画
	項目	目標	
成長機会の提供	成長機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>次期リーダー育成</li> <li>グローバル人材育成</li> <li>キャリア開発支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代経営人材育成プログラムの始動</li> <li>グローバル人材育成の加速</li> <li>人材育成スキームのリニューアル</li> </ul>
安全で働きやすい職場づくりの推進	安全で働きやすい職場づくりの推進	安全で長時間労働やハラスメントのない職場環境の維持・促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職向けセミナーの開催</li> <li>時間外労働の削減</li> </ul>
ダイバーシティの推進と働き方改革の実施	風土改革の推進	ダイバーシティ経営、働き方改革に対する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営陣からの情報・メッセージ発信</li> <li>社員間の横のつながりの強化</li> </ul>
	女性活躍の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性管理職比率の改善</li> <li>子育て支援の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認定マーク「くるみん」「えるぼし」の取得</li> <li>フォーラムの開催</li> </ul>
	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務効率の改善</li> <li>ワークライフバランスの改善</li> <li>多様な働き方の受容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IT化の推進</li> <li>新しい人事制度の創出</li> <li>在宅勤務などの定着</li> </ul>
健康経営の推進	健康経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員の健康増進</li> <li>健康経営銘柄の取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断事後措置の強化</li> <li>メンタルヘルス対策の強化</li> <li>健康増進・がん予防セミナーの開催など</li> </ul>
人権の啓発推進	人権の啓発推進	人権問題への正しい理解・認識にもとづく差別を許さない人権尊重の企業風土づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権啓発推進活動</li> <li>社内人権啓発研修の開催</li> </ul>

※サステナビリティ中期経営計画の進捗状況についての詳細は、サステナビリティレポート(ウェブサイトに)掲載しています。

### 成長機会の提供

#### ■グローバル人材の育成

マルハニチロ(株)では、「国内外問わず、どこでも誰とでも仕事の成果を出せる人材」をめざして、「グローバル人材育成プログラム」として社内で広く人材を募集しています。

2018年度は、プログラムをリニューアルし、今まで以上に到達基準を明確にした人材定義、要件で募集をかけました。2018年度は34名が参加登録され、「ダイバーシティ対応力」「コミュニケーション能力」「リーダーシップ」「強いメンタル」「専門性」といった要件を一定期間までに満たすための教育訓練を実施しています。また、グローバル人



海外グループ会社での海外トレーナー研修

材の中から数名を1～2年間海外グループ会社に派遣する「海外トレーナー制度」を2014年度から実施しています。

### 安全で働きやすい職場づくりの推進

#### ■長時間労働とハラスメントの防止

長時間労働やハラスメントは従業員の生命にもかかわる問題に発展する恐れもあり、マネジメントが不可欠です。マルハニチログループでは、長時間労働の防止に向けて就業規則や労働協約などにもとづいた労働安全衛生に関する委員会を事業所ごとに設置し、時間外労働の実態確認や職場の問題点を確認し、対策を講じています。

ハラスメントの防止に向けては、内部通報制度、ハラスメント相談窓口を設けているほか、管理職向けセミナーや各種啓発活動を実施しています。

またマルハニチロ(株)では、「ノー残業デー」「フレックスタイム勤務制度」の推進によって、業務効率の向上にもつなげています。

### ダイバーシティの推進と働き方改革の実施

#### ■風土改革の推進：ダイバーシティ会議の開催

マルハニチロ(株)では「ダイバーシティ推進は経営としての責任であり使命」と捉えており、2018年度に取締役によるダイバーシティ推進に関する会議を開催しました。ダイバーシティ推進の重要性を再確認し、その想いを取締役



取締役によるダイバーシティ会議

全員で共有しました。また、管理職向けのマネジメント研修を始めとした、さまざまな施策に取り組んでいます。

#### ■女性活躍の推進：ダイバーシティフォーラムの開催

すべての従業員にとって働きがいのある職場風土を醸成するための最初のステップとして、「女性活躍」という言葉について会社と女性従業員が共通の認識を持つこと、そして女性視点で“社内に浸透させたい想い”を発信してもらうことを目的に、「ダイバー視点(シティ)フォーラム2019～Working Woman Session～」を開催しました。2018年度に2回開催し、入社4～6年目や未就学児を持つ女性従業員などが参加しました。

なお、マルハニチロ(株)は、女性活躍推進、子育て支援への取組みが優良な企業に発行される認定マーク「えるぼし」「くるみん」を取得しています。



Working Woman Session



### 健康経営の推進

#### ■2018年より2年連続「健康経営優良法人(ホワイト500)」に認定

マルハニチロ(株)は、2014年から「健康経営」を統括する専門組織としてマルハニチロ健康管理室を設置し、マルハ

ニチロ健康保険組合と協働で従業員の「健康なこころとからだ」を保持・増進させる取組みを推進しています。産業医、保健師が中心となって、健康指導等に取り組むとともに、メンタルヘルスケアについても臨床心理士による社内研修を開催するなど従業員のリテラシー向上に努めています。これらの取組みにより2018年、2019年と2年連続して経済産業大臣より「健康経営優良法人(ホワイト500)」の認定を受けています。



#### ■従業員のヘルスリテラシー向上

マルハニチロ(株)では、従業員のヘルスリテラシー向上を目的とし、2019年2月に「マルハニチロ“健活”セミナー」を豊洲本社で初めて開催しました。マルハニチロ健康管理室産業医による生活習慣病予防策についての解説や、RIZAP株式会社のトップトレーナーを外部講師としてお招きするなど、従業員の健康増進を図っています。



「健活」セミナー

### 人権の啓発推進

#### ■管理職を対象とした人権啓発研修

マルハニチロ(株)では、社内人権啓発研修として2017年度以降、役員および管理職を対象に「性的少数者(LGBT)とセクシャルハラスメント」をテーマとした研修を開催しています。これは、LGBTに関する正しい理解と認識を深め、差別やハラスメントを許さない人権尊重の企業風土を構築することを目的としています。

#### 2018年度の人権啓発研修

対象者	役員および管理職
開催数	19回
受講者	256名

※対象範囲：マルハニチロ(株)

誌面の都合上、一部の取組みのみを紹介しています。詳しくはサステナビリティレポート(ウェブサイトに)をご覧ください。

「社会価値」の創造

## お取引先への価値

マルハニチログループは、サプライチェーンにおける環境、人権や労働安全衛生といった社会課題に対応するため、「CSRに配慮したサプライチェーンの構築」をサステナビリティ中期経営計画の中期目標として定めています。2017年に制定した「マルハニチログループ調達基本方針」および「マルハニチログループサプライヤーガイドライン」の運用を開始しています。

## サステナビリティ中期経営計画

重点課題	中期目標		行動計画
	項目	目標	
持続可能な調達の実践	CSRに配慮したサプライチェーンの構築	「調達基本方針」「サプライヤーガイドライン」「腐敗防止宣言」にもとづくCSRに配慮したサプライチェーンマネジメントの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>「調達基本方針」「サプライヤーガイドライン」「腐敗防止宣言」のサプライヤーへの周知徹底</li> <li>サプライヤーへのモニタリングの実施</li> </ul>

※サステナビリティ中期経営計画の進捗状況についての詳細は、サステナビリティレポート(WEBサイト)に掲載しています。

## マネジメント体制

マルハニチログループは、幅広いサプライチェーンをカバーするさまざまな事業を有しており、これらの事業活動における原料、資材、製品などの調達先の選定は、各事業部門が責任をもって実施しています。そのため、マルハニチログループにおけるサプライチェーンマネジメントは、原則として調達部署が、2017年度に制定した「調達基本方針」「サプライヤーガイドライン」にもとづき、サプライチェーンを構築し、調達活動における社会的責任を果たしていきます。

## お取引先とのコミュニケーション

### 「マルハニチロ魚栄会」

マルハニチロ(株)では、北海道から九州まで全国各地の水産物卸売市場に入場している卸売業者を主要メンバーとする「マルハニチロ魚栄会」を結成しています。水産物流通の円滑化と、安全・安心な水産物を安定供給することを目的として組織され、2019年3月現在の会員数は147社にのびます。

マルハニチロ(株)は、魚栄会メンバーと連携して、新鮮で安全な魚をより多くのお客さまにお届けするとともに、健康な食生活のご提案や魚食文化普及のための食育活動、さらに正確な商品情報の提供などに努めています。



魚栄会定例総会に登壇する当社社長の伊藤 滋

## キングフィッシャー社(タイ)の取組み

タイで冷凍食品とレトルト食品を製造・販売しているキングフィッシャー社は、サプライチェーン管理を一層強化するとともに、その透明化・可視化に注力しています。同社は、2016年より方針・ガイドラインのサプライヤーへの周知徹底を図るとともに、水産物加工業者や欧米の小売業者、タイ政府などが参加する「Seafood Task Force」の創立メンバーとして参画し、現在も、タイ全体のサプライチェーンの課題解決をリードしています。

2018年にはキングフィッシャー社のWEBサイトを一新し、サプライチェーン管理を含めて網羅的な情報開示に努めています。

キングフィッシャー社のサステナビリティの取組みについて詳しくはWEBサイトをご覧ください。  
<http://www.kingfisher.co.th/Sustainability.php>



## TOPICS

### 人権尊重の取組み

マルハニチログループでは、2019年7月、国際連合「ビジネスと人権に関する指導原則」にもとづいた人権方針「マルハニチログループ人権方針」を策定しました。

#### マルハニチログループ人権方針

私たちマルハニチログループでは、企業理念にあります「私たちは誠実を旨とし、本物・安心・健康な『食』の提供を通じて、人々の豊かなくらしとしあわせに貢献します。」を实践するために、私たちを取り巻くあらゆる人々の基本的な人権を尊重し、配慮した活動を行っていきます。

#### 1. 人権尊重の実践

私たちマルハニチログループは、「国際人権章典」および国際労働機関(ILO)の「労働の基本および権利に関する宣言」に記載された人権を支持、尊重し、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」にもとづき、活動を推進していきます。

#### 2. デューデリジェンスの実施

私たちマルハニチログループは、事業活動を通じて、直接的または、間接的に与える人権への負の影響を防止または軽減、是正していくための人権デューデリジェンスの仕組みを構築します。人権への負の影響を引き起こした、または助長した場合には、救済措置を取ります。また、人権への影響に関する懸念を通報できる仕組みを構築していきます。

#### 3. 適用範囲

マルハニチログループ人権方針は、マルハニチログループのすべての役員と従業員に適用します。また、マルハニチログループ役員一人ひとりが人権について考え理解を深める機会を作るため、人権啓発を行っています。本方針の運用については、マルハニチロ人事担当役員が責任を担います。また、マルハニチログループは、お取引先様およびその他の関係者様とも協働し、取り組んでまいります。

#### 4. 本方針の位置づけ

マルハニチログループは、「グループ行動指針」の中で、「労働・人権」にかかわる項目として、「多様性を尊重し、安全で風通しの良い職場環境」、「人権尊重と強制労働・児童労働禁止」を掲げています。本方針は、この「グループ行動指針」を補完するものとして、関係する方針やガイドラインに反映していきます。

#### 5. 適用法令の遵守等

マルハニチログループは、事業活動を行う国・地域における法令を遵守し、国際的に認められた人権と各国法間に矛盾がある場合には、国際的な人権の原則を尊重するための方法を追求します。

#### 6. 重要な人権課題

私たちマルハニチログループは、職場におけるハラスメントを禁止し、雇用にあたっては、不法労働でないことを確認の上、労務管理をしっかりと行います。また、取引先にも同様の対応を求めています。

#### 7. ステークホルダーとの対話

人権尊重の取組みにおいては、ステークホルダーとの対話を行ってまいります。尚、取組みにつきましては、WEBサイトや統合報告書等で情報開示していきます。

制定：2019年7月

### 中期的な行動計画

2019年度より、これまでマルハニチロ(株)を対象に実施してきた人権啓発研修(P.47)において「マルハニチログループ人権方針」の内容を盛り込み、国際基準の人権尊重の認知を高めていきます。また国内外のサプライチェーンにおける人権リスクの実態把握のため、ヒアリングやアンケートにて調査を実施していきます。

誌面の都合上、一部の取組みのみを紹介しています。詳しくはサステナビリティレポート(WEBサイト)をご覧ください。

「社会価値」の創造

地域・社会への価値

サステナビリティ中期経営計画では、食の大切さを伝え、健康に貢献していくための「食育活動」、未来につなげる自然環境の保全を推進していく「環境活動」、地域社会の発展への貢献をめざす「地域貢献活動」の3つの活動に取り組んでいます。

サステナビリティ中期経営計画

重点課題	中期目標		行動計画
	項目	目標	
地域社会との共存・共栄	食育活動	食の大切さを伝え、健康に貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライフステージに寄り添いながら、健やかな暮らしを支える「食」の提案</li> <li>持続可能な水産資源を使った料理教室の開催</li> </ul>
	環境活動	未来につなげる自然環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業場所在地における地域社会の環境保全活動への参加</li> <li>持続可能な環境資源の普及</li> </ul>
	地域貢献活動	地域社会の発展への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域文化継承への協力</li> <li>地域社会とのコミュニケーション</li> <li>モノづくりの価値を伝える機会の創出</li> </ul>

※サステナビリティ中期経営計画の進捗状況についての詳細は、サステナビリティレポート(ウェブサイトに掲載しています)。

食育活動

■「Fish for Kids」プログラム

マルハニチログループの中で、アラスカ産天然ベニザケをもっとも多く取り扱うピーターバンシーフーズ社(米国)は、「Fish for Kids」というプログラムを2007年から行っています。このプログラムは、地元の学校給食の魚メニューをよりおいしく改善しようと立ち上がったもので、参加呼びかけに応じた地元の漁師の方々が、漁獲したベニザケを工場でフィレ加工し、学校に無償提供しています。給食メニューの幅も広がり、子どもたちに好評を博しています。現在では、老人ホームや保育園にまでその取組みは拡大しています。



ピーターバンシーフーズ社のメンバー

■親子マグロ料理教室

マルハニチロ(株)は、2012年から「親子マグロ料理教室」を豊洲本社にて継続して開催しており、これまで7年間でのべ157名の親子が参加しました。マグロ1匹まるごとの解体や調理実習を通じて、魚の生態やおいしさを伝えています。

2019年2月に開催した料理教室では、親子35名が参加しました。大きなマグロを見て、触って、そして解体したマグロをみんなで料理しおいしく食べ尽くし、笑顔あふれる1日となりました。



2019年「親子マグロ料理教室」参加者

環境活動

■アマモ場再生活動

マルハニチログループは、東京湾の水質改善と海の生き物の棲家などの環境を整えることを目的としたアマモ場再生活動に2014年から協力しています。

アマモは水深1～数メートルの沿岸砂泥地に自生する海草の一種で、潮流を和らげ、魚類や水中生物などの産卵・生息場所となります。また水質を浄化する役割も果たします。



アマモ場再生活動の参加者

また、2018年6月に開催したアマモの花枝採取イベントには、マルハニチログループの従業員とその家族116名が参加し、NPO法人海辺づくり研究会の指導のもと、海中のアマモの花枝1,400本を採取しました。

2018年6月に開催したアマモの花枝採取イベントには、マルハニチログループの従業員とその家族116名が参加し、NPO法人海辺づくり研究会の指導のもと、海中のアマモの花枝1,400本を採取しました。

取イベントには、マルハニチログループの従業員とその家族116名が参加し、NPO法人海辺づくり研究会の指導のもと、海中のアマモの花枝1,400本を採取しました。

■グリーンベルト植栽活動

大洋エーアンドエフ(株)は、2011年から始まった沖縄における「グリーンベルト植栽活動」に、開始時から参加しています。地域の漁業者と、子どもや地域に奉仕する方々が中心となって植栽を行い、農地から海への赤土等の流出を守る活動です。

2018年はクロマグロ養殖事業を営む大洋エーアンドエフ(株)沖縄事業所のメンバーが集まり、沖縄県本部町地区における植栽活動を行いました。

さらに同社は2013年より、地元小学生への環境教育の支援として、養殖クロマグロの水揚げの見学、赤土等流出が漁業に及ぼす影響やクロマグロ養殖についての学習会などを行っています。



植栽活動の様子

さらに同社は2013年より、地元小学生への環境教育の支援として、養殖クロマグロの水揚げの見学、赤土等流出が漁業に及ぼす影響やクロマグロ養殖についての学習会などを行っています。

地域貢献活動

■フードバンク支援

マルハニチログループは、日本でフードバンク活動\*を行っているセカンドハーベスト・ジャパンの活動に賛同し、2009年より継続的に寄贈しています。福祉向上に寄与だけでなく、食品廃棄物の発生を抑制する取組みでもあります。

また、北米にあるマルハニチログループ4社では、フードバンク活動の発祥地として先進的に取組みを進めており、



セカンドハーベスト・ジャパンへの寄贈

ワシントン州を拠点とする「SeaShare」という組織などを通じて、商品化できない混獲魚種や、食品としては問題ないも

の変形などによって出荷できない缶詰などを寄贈しています。

\*フードバンク活動：まだ十分に食べることができるにもかかわらず、さまざまな理由で流通が困難になった商品を、生活困窮者へ無償で提供する活動。

■青森ねぶた祭

1953年に大型ねぶたを出して以来、マルハニチロ(株)は、半世紀にわたって、毎年青森ねぶた祭\*に参加しています(一部の年を除く)。2018年は、海上交通の守護神として古くより漁師や船員などから信仰を集める金毘羅大権現の大型ねぶたを制作して参加し、大勢の観光客に楽しんでいただきました。

\*青森ねぶたは、国の重要無形民俗文化財に指定された東北三大祭りのひとつ。



マルハニチロ 佐武多 2018

■World Tuna Day Fishing Tournament 共同開催

国連が5月2日をツナ資源の維持とツナ産業の健全なる発展を祈る日「World Tuna Day」と制定したことを受けて、2017年よりNORMA(マイクロネシア国家海洋資源管理局)では各種催しが行われています。大洋エーアンドエフ(株)の現地合弁会社Taiyo Micronesia Corporation(TMC)は、TMCの合併パートナーであるNational Fisheries Corporationと共同で「World Tuna Day Fishing Tournament」を開催しています。2018年に引き続き、2019年も開催され、老若男女の参加者が自慢の釣りの腕前を競いました。



2019年参加メンバー

誌面の都合上、一部の取組みのみを紹介しています。詳しくはサステナビリティレポート(ウェブサイトに)をご覧ください。